

❁□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁
メールニュース 8月号 理研バイオリソースセンター実験植物開発室
❁□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁

このメールは、最近リソースの請求をされた方、技術研修に参加された方、及び展示会等にて実験植物開発室からのメールニュースを希望された方を対象に送信しています。配信不要の方はお手数ですが、 plant@brc.riken.jp までご連絡ください。

-----● 新規培養細胞株の提供を開始します ●-----

山梨大学より寄託を受けたブドウの懸濁培養細胞 YU-1 株と、農業生物資源研究所より寄託を受けたシロイヌナズナの懸濁培養細胞 At wt 株の提供準備が整いましたのでお知らせします。ご注文やお問合せは、plant@brc.riken.jp にお願ひ致します。

<http://www.brc.riken.jp/lab/epd/news/130731.shtml>

なお発送は、猛暑がおさまる 9 月より開始します。どうぞご利用ください。

-----● 研究集会にて展示を行います ●-----

7 月号でご案内しました第 12 回国際コムギ遺伝学シンポジウム (12th IWGS、9 月 8 日～14 日、パシフィコ横浜) に加え、北海道大学で開催予定の第 31 回植物細胞分子生物学会大会・シンポジウム (9 月 10 日～12 日) 及び日本植物学会第 77 回大会 (9 月 13 日～15 日) にもブースを出展致します。ぜひご来場ください。

<http://www.knt.co.jp/ec/2013/jspcmb31/>

<http://www.knt.co.jp/ec/2013/bsj77/>

-----● テクニカルサポート (No. 4) : ミナトカモジグサの育苗について ●-----

ミナトカモジグサ (*Brachypodium distachyon*) Bd21 株の栽培プロトコルシリーズの最終回は、種子を採るまでの栽培について説明します。

方法

1. 発芽種子を移植したポットを深型コンテナーに並べ、コンテナーの底から 1.5 cm 程度までペンタキープ水を入れて 22°C・光周期 20 時間明期/4 時間暗期の環境下で栽培する。(当室では植物育成ラック 1 段に 40W の白色蛍光灯を 4 本使用し、棚面の光量子束密度は平均 100 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ に調節しています。生育初期は、植物から光源まで距離があるので底上げして栽培しています。)
2. 2-3 日おきに給水 (ペンタキープ水週 1 回、水のみ週 1 回) しながら育成する。水のやり過ぎは根腐れやカビ発生の原因になるので、コンテナーの底が乾き始めたら適量を給水する程度でよい。
3. 移植から約 6 週間後に出穂する。
4. 穂が茶色になり始めたら給水を止め、1 ヶ月間乾燥させた後に採種し、4°C で保存する。1 個体当たり 150 粒程度採種できる。

ミナトカモジグサリソースの栽培マニュアルをご希望の方は、plant@brc.riken.jpまでご連絡ください。

❀*:・'° ❀° '・*:。 ❀.:*:・'° ❀。.:*:。.:*❀

理化学研究所バイオリソースセンター

実験植物開発室 提供係

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-1-1

TEL 029-836-9067/FAX 029-836-9053

MAIL plant@brc.riken.jp

HP <http://www.brc.riken.jp/lab/epd/>

❀*:・'° ❀° '・*:。 ❀.:*:・'° ❀。.:*:。.:*❀